



藤嶋 柚乃 (ふじしま ゆずの) 下柚木小 2年生

作品名:「オバケたんてい」を読んで

図 書:オバケたんてい

お話でわたしの一番好きなところは、ケーキのかざりをやりなおしたところだった。

わたしはおかし作りが好きなので、ケーキをかざりつけることをかんがえたら自分でもやって見たくてわくわくした。

いろいろなものでケーキを作りかえるのはわたしは思いつかなかったけど、いい考えだと思った。ケーキにはフルーツがたくさんあってとてもきれいにできておいしそうだった。

オバケのぱらぱらとぐるぐるは、いたずらっ子だと思う。でも、ダイくんがこまっていたら、はなしを聞いてくれた。それから、いっしょにケーキを作りなおしてくれた。

ダイくんはイチゴがなくなったのをまた自分のせいにされると思っていたから、心ばいでたまらなかったと思う。

わたしはどうしていいかわからなくなるとパニックで心ぞうがバクバクして、心がくらくらする。なきたくなることもある。

前にわたしがこまっていると、友だちがやさしく声をかけてくれたことがあった。その時の気もちの色は、くろ色からにじ色にかわった。

ダイくんもオバケがたすけてくれて、きつとうれしかったと思う。

こまっている時にたすけてもらえるとうれしいから、こまったりおちこんでいる友だちがいたら、わたしはやさしく声をかけてみようと思う。

わたしはさいしょ、オバケなんていないと思っていた。だから「オバケたんてい」なんてなんかへんだなと思った。

わたしはオバケを見たことがない。よふかししたらお母さんにとてもおこられてしまうから。だから、まよ中はいつもねている。

ぱらぱらとぐるぐるみたいなオバケなら会ってみたい。オバケって本とうはやさしいみたい。

オバケと友だちになったらいいだろうと思う。いっしょにおにごっこをしたり、おかし作りをしたら、きつたのしいと思う。

わたしもまよ中までおきていたらオバケに会えるかもしれない。いつかこっそりよふかししてみたいな。